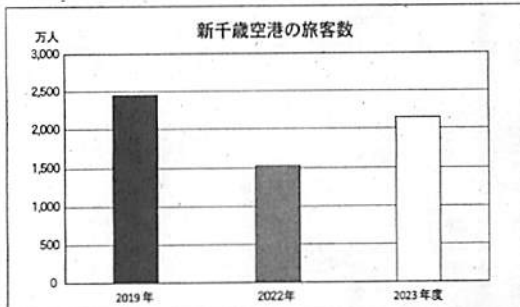


日銀事務所長の
あさひかわ経済
あれこれ No.36

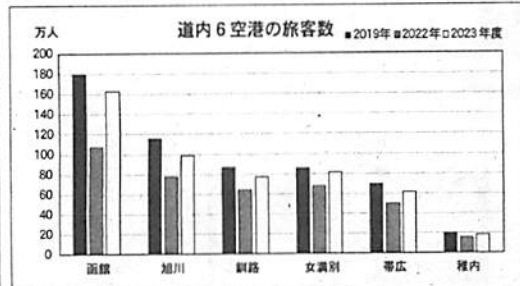
重要度を増す旭川空港を
活用した観光施策

023年1月は6万9千人と、コロナ前19年1月の7割強の水準に戻りました。2月は国際線の再開に加え、国内便の旅客数の回復でコロナ前の水準にまた一歩近づいた可能性が高いと思われま

先月、旭川空港の国際線の運航が3年振りに再開されました。2月16日に韓国からのチャーター便の第1便が到着し、空港では歓迎のセレモニーが行われました。同空港の2月の国際線の旅客数(本コラム執筆時点では未発表)は、おそらくコロナ前の水準を下回ったものとみられます。それでも、大きな一歩であることは間違いありません。旭川空港の旅客数は、回復基調にあります。2



(注)2019年、2022年は暦年の実績、2023年度は年度の計画。
(出所)国土交通省・空港別乗降客順位、北海道エアポート・北海道内7空港運用状況(速報値)、同事業計画



(注)2019年、2022年は暦年の実績、2023年度は年度の計画。
(出所)国土交通省・空港別乗降客順位、北海道エアポート・北海道内7空港運用状況(速報値)、同事業計画

その理由は、国内ビジネス客が戻らないためとことです。コロナ禍でリモートワークが普及し、出張や出張の回数を減らしても仕事を回すところ、HAPの道内7空港の運営に関する

そのためには、現にある魅力的な観光コンテンツを、交通アクセスも勘案しながら上手く組み合わせることが大事です。出来上がったプランや商品を効果的に発信し、PRしていくこと

旭川やその周辺を訪れる観光客が増えれば、旭川空港は函館空港ととも、広域周遊観光の玄関口となる。広域ゲートウェイに位置づけられています。そのための課題の一つとして、「世界屈指の山岳スノーリゾートとしての魅力向上」を掲げていま



【大賀健司(おがけんじ)】一九六五年神奈川県生まれ、青山学院大学法学部卒業。業務企画役、青森支店次長、政策委員会企画役、静岡支店次長を経て二〇二〇年に旭川事務所長に就任。

も欠かせません。そして最も大切なのは、そうした企画や現地での観光客のガイド等を担う観光人材を増やしていくことです。商品の高付加価値化により、そうした人材の待遇の改善を図る必要もあるでしょう。道北地域を訪れる観光客は、インバウンドを含めて増えつつあり、持ち直しています。今年5月には旭川空港と台湾の定期便の運行再開が予定されているほか、中国本土からの訪日客の本格回復も想定される

チャートラベルワールドサミットがリアル開催される予定となっています。アドベンチャートラベルとは、「アクティビティ」、「自然」、「異文化体験」の3つの要素のうち2つ以上を組み合わせた旅行形態と定義されています。まさに北海道にぴったりの旅のスタイルです。今年